

since 1920

運輸新聞

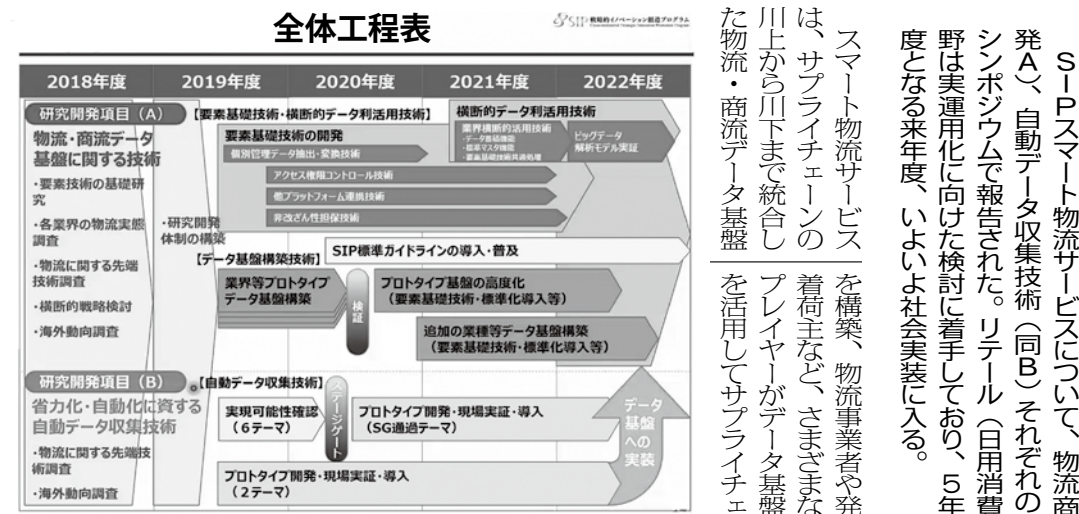
E-mail inquiry@unyu.co.jp URL http://www.unyu.co.jp

発行所・運輸新聞株式会社
東京都荒川区西日暮里3-6-10
佐々木ビル3F 〒116-0013
TEL03-5685-0035
関西支社 大阪市中央区瓦町1-3-2
〒541-0048 TEL06-6209-3261
発行人・野田裕之
火・金発行(祝日を除く)
3,600円/月(送料・税込)

2021年
10月26日(火)
第17438号

TREX 先端のニーズに応える技術力で
輸送社会の未来を開く!
 日本トレクス株式会社

スマート物流サービス 社会実装へ データ変換技術はほぼ完成



スマート物流サービスを構築、物流事業者や発着荷主など、さまざまなプレイヤーがデータ基盤を活用してサプライチェーン全体の省人化・効率化を目指す。

シンポジウムでは、研究開発を統括する田中從雅(プログラマディレクター(PD))が物流・商流データ基盤について「サプライチェーンの最適解を得るには情報を一つにしておくことが大事。中小企業が活用するには安価なものをつくらなければならぬ」と述べた。

要素基礎技術(データを読み替える技術)は富士通が発表。データを活用できるプラットフォームの構築を計画しており、共通インターフェースを介して利用してもらうことを想定している。

課題としてデータの公開、非改ざん制担保技術などを挙げつつ、「個別管理データ抽出・変換技術はほぼ完成しており、コード変換テーブルを作成し提供していく方針を示した。

研究開発に着手した医療材料分野は共同院外倉庫構想(SPD業務の工数削減)について、アパレル分野は輸入する際に荷量を集約し積載効率を上げる取り組みについて既に現場実証を実施し

説明した。自動データ収集は、Automagiが映像処理、佐川急便JVが自動荷降ろし技術、東京都立大学がアンテナ技術を用いた安価な技術開発状況を紹介した。

スマート物流サービスを管理法人は、プラットフォームに蓄積されたデータを収集・分析してトラックシミュレーションとして登録し、大学などに開放して新たなサービスを創出する「ビッグデータ利活用構想」を今年度から着手したと報告した。

両(48台)を活用したきめ細かな配送を得意とし、都市部を中心に4カ所のクロスドック拠点を保有している。FLPとArmiraが有する機能を相互に生かし、ポラード全土において高品質な低温物流サービスを提供することで、さらなる事業拡大を目指す。

医薬品ドローン輸送の検証などで協定を締結
ヤマト運輸と岡山県和気町、徳島県那賀町とドローンを活用した医薬品輸送の実現可能性を検証する連携協定を22日に締結した。

同社は15年以上にわたる、医療機器や医薬品の流通に関する物流課題に際して、調達から流通加工、温度管理を含むトレース管理や配送など一貫した物流ソリューションを提供。近年は、パートナー企業と連携し、遠隔処方領域における調剤薬局などへの物流サービスを今年度内の予定。

積極的に提供してきた。今回の協定により、地域における持続可能な医薬品輸送ネットワークの構築に向け、実際の運用を想定し、物流拠点から病院や調剤薬局までの拠点間輸送に加え、処方薬やスペシャリティ医薬品なども視野に入れたドローンによる個人宅への配送の実証実験も、ドローンを活用した医薬品輸送ネットワークの実現可能性を検証する。

協定の主な内容は、①検証計画を作成するため必要な情報提供②関係団体、地域住民などへの説明、理解、協力の確保③検証を遂行するために必要な許可の取得支援④処方後の処方箋薬の供給、オンライン診療・服薬指導⑤卸業者による医薬品輸送⑥その他、検証遂行のために必要な支援。

実証実験期間は、岡山県和気町が11月下旬(詳細は11月上旬に案内予定)、徳島県那賀町は今年度内の予定。

27日から青海で開催

フードディストリビューション 食品物流の課題解決

食品物流の課題解決を提案する専門展「フードディストリビューション2021」が、27日(29日)の3日間、「東京ビッグサイト青海展示棟」で開催される。

主催は日本加工食品卸協会、食品産業センター。今回で5回目となり、コロナ禍の中で開催された昨年は約2万8000人が来場した。

主な出展内容は、マテ

ハン、省力化ロボット、倉庫作業支援設備、冷凍・冷蔵設備、防護柵など物流設備・機器・部品、ICTタグ、配車・運行管理、出入庫管理、温度・鮮度管理などシステム・ソフトウェアサービス、それにワールドチェーン関係、包装・資材、物流サービスなど。

会場内では食品物流・ECにフォーカスした専門セミナーも開催され

る。27日は「加工食品の外装サイズ標準化」をテーマにした講演、28日は「納品リードタイム延長問題」、29日は「物流資源の有効活用と人材マッチング」。「最新テクノロジ」を用いた物流現場の課題解決をテーマにパネルディスカッションが行われる。

WEBによる完全事前来場登録制。公式ウェブサイトで来場登録し、

来場者証(QRコード)を印刷して会場に持参。セミナー聴講登録は、事前来場登録後、セミナーページから聴講希望のセミナーを選択(複数登録可)してセミナー会場入口で来場者証を提示。

フードディストリビューションは、りんかい線東京テレポート駅から近いAホールで開催。Aホールではフードファクトリー、フードセイフティ(衛生資材や洗浄、検査機器などを展示)、Bホールではフードシステムソリューション、冷食JAPANなどを併催している。

2050年カーボンニュートラル、30年度46%削減の道筋を示す「地球温暖化対策計画」、30年度までのエネルギー需給の見通しを示す「第6次エネルギー基本計画」が22日閣議決定した。

30年度のエネルギー起

地球温暖化対策計画に差引いて6億7000万ト(13年度比45%減)で、うち運輸部門は電源の抑制と関係しないため、1億4600万ト(同35%減)。ただし従来目標(同27%減)より1500万トの削減が求められる。

FCV(燃料電池車)は航続距離の長さや充填

このためには、省エネ法における荷主・輸送事業者の評価見直し、AIなどを活用したサプライチェーン全体の物流高効率化が必要としている。

去る10月1日(金)、上越新幹線E4系Maxが定期運行を終了した。オール2階建て新幹線E1系Maxの2代目として開発されたE4系は、今から24年前の1997年12月20日に東北新幹線で営業運転を開始した。ラストラン当日、たまたまホームにいた筆者は、カメラを構えたたくさんの人々に遭遇した。Maxの運行終了を惜しむ人たちが、JRのホームページなどに書き込んだコメントを読むと、さまざまな情景が熱く、時代の思い出をつづる人々、大切な旅の途中に利用した人、通勤でいつも何気なく乗車していた人。筆者も何度か乗ったが、1階がほとんどだったため、たまに視界に入ると景色よりも、窓のすぐ外に見えたホームの床の記憶が強い。今となってはそれも貴重な思い出である。飛行機が苦手な筆者は、国内の移動には今後も列車にお世話になることが多いだろう。家族や友人には「飛行機に乗ればもっと遠くへ行けるのに」と言われるが、のんびりとした列車の旅が、今の自分には必要な気がする。また安心はできないものの、ようやく感染状況は落ち着いてきた。旅の気分が存分に味わえる、そんな日がすぐそこまで来ていると信じたい。@ (21・10・26)

ニチレイロジ 低温物流会社を買収

ポーランド全土で事業拡大

ニチレイロジグループ本社は、ポーランドの子会社であるFrigo Logistics Sp. z o.o. (フリゴロジスティクス、FLP)を通じ、同国で低温物流事業を手がけるArmira Logistics Sp. z o.o. (アルミール ロジスティカ、Armira)を買収した。

も低温物流事業を展開。

FLPは、20日にArmiraの株式をすべて取得し、子会社化した。同社は世界第5位の冷蔵保管能力を有し、1988年のオランダ進出を皮切りに、ヨーロッパで

Armiraは、自社車

Armiraは、自社車